

## あきたからの米レター

**生育は順調だが、圃場間差が大きい**  
**圃場ごとに栄養診断を行い、穂肥の判断を！**  
**斑点米カメムシ類の発生多い！雑草管理と適期防除を！**

## 1. 県内の生育状況

## (1) 各地域の生育状況

分けつ期初期の6/9時点では、中央地区は生育が平年並みでしたが、県北・県南地区では茎数が少なく、茎数確保が課題となっていました（令和5年産 秋田米産地情報第1号参照）。

しかし、6月2半旬以降は気温が高温で推移したことや、適切な水管理により分けつの発生が促進され、6/26調査では、生育が遅れ気味だった県北・県南地区でもほぼ平年並みの茎数を確保できています（表1）。また、平年と比べると草丈も長く、葉数も若干ではありますが進んでおり、順調な生育となっていました。

一方、田植えが遅かった圃場や深水管理を行った圃場、土壌の異常還元により分けつが抑制された圃場では、茎数が十分に確保できておらず、圃場間差が大きい状況となっていました。

最高分けつ期にあたる7/5調査では、草丈は平年に比べ長く、葉緑素計値は平年並みでした（表2）。茎数は中央地区では平年並みでしたが、県北・県南では平年より少なくなっています。しかし、いずれも最高分けつ期における理想生育量の下限値とほぼ同等～上回っていることから、十分な茎数が確保できている場合は、直ちに中干しを開始して下さい。

6月下旬以降の天候は、

- ① 周期的な曇天と晴天の気象変化と最低気温が高く、全般に高温で経過
- ② 日照不足

となっており、草丈が長く推移しています（図1、3）。また、11葉期に達している圃場もあるため、生育に応じたきめ細やかな圃場管理を行う必要があります。

表1 県内の生育状況（6/26、各地域振興局調査）

| 品種            | 地区 | 草丈         |            |            | 茎数          |            |            | 葉数  |     |     | 葉緑素計値 |            |            |
|---------------|----|------------|------------|------------|-------------|------------|------------|-----|-----|-----|-------|------------|------------|
|               |    | 本年<br>(cm) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本年<br>(本/㎡) | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) | 本年  | 前年差 | 平年差 | 本年    | 前年比<br>(%) | 平年比<br>(%) |
| あきたこまち        | 県北 | 42.1       | 126        | 111        | 434         | 127        | 95         | 9.2 | 0.4 | 0.3 | 43.9  | 95         | 99         |
|               | 中央 | 43.9       | 123        | 114        | 440         | 128        | 111        | 9.2 | 0.2 | 0.4 | 43.5  | 91         | 99         |
|               | 県南 | 38.7       | 126        | 109        | 346         | 124        | 92         | 8.7 | 0.5 | 0.2 | 44.3  | 100        | 101        |
|               | 全県 | 40.9       | 125        | 111        | 394         | 125        | 97         | 9.0 | 0.4 | 0.3 | 44.0  | 96         | 100        |
| ひとめぼれ<br>(参考) | 中央 | 45.3       | 123        | 117        | 548         | 103        | 106        | 9.4 | 0.3 | 0.4 | 40.0  | 93         | 97         |

表 2 県内の生育状況（7/5、各地域振興局調査）

| 品種               | 地区 | 草丈   |     |       | ㎡当たり茎数 |     |     | 葉数   |      |     | 葉緑素計値 |     |     |
|------------------|----|------|-----|-------|--------|-----|-----|------|------|-----|-------|-----|-----|
|                  |    | 2023 | 前年比 | 平年比※1 | 2023   | 前年比 | 平年比 | 2023 | 前年比  | 平年差 | 2023  | 前年比 | 平年比 |
|                  |    | (cm) | (%) | (%)   | (本)    | (%) | (%) | (葉)  |      |     |       | (%) | (%) |
| あきたこまち           | 県北 | 55.7 | 97  | 108   | 505    | 125 | 89  | 10.4 | 0    | 0.2 | 44.4  | 94  | 101 |
|                  | 中央 | 57.2 | 92  | 110   | 496    | 124 | 101 | 10.4 | -0.1 | 0.2 | 42.3  | 88  | 97  |
|                  | 県南 | 51.8 | 93  | 103   | 470    | 117 | 91  | 10.1 | 0    | 0.1 | 44.1  | 95  | 98  |
|                  | 全県 | 54.2 | 94  | 106   | 488    | 121 | 92  | 10.3 | 0    | 0.2 | 43.9  | 93  | 99  |
| ひとめぼれ            | 中央 | 55.9 | 90  | 107   | 580    | 102 | 100 | 10.4 | -0.1 | 0.3 | 36.9  | 85  | 91  |
| 理想生育量※2<br>(7/5) | 県北 | 50   | 47  | 45    | 588    | 550 | 512 | 10.0 | 9.8  | 9.6 | 44    | 43  | 42  |
|                  | 中央 | 51   | 49  | 46    | 576    | 527 | 478 | 10.0 | 9.8  | 9.5 | 46    | 45  | 44  |
|                  | 県南 | 50   | 47  | 45    | 484    | 462 | 440 | 10.0 | 9.8  | 9.6 | 45    | 44  | 43  |

※1 平年値：平成22年～令和元年までの過去10年平均

※2 各項目、左から上限値、理想値、下限値

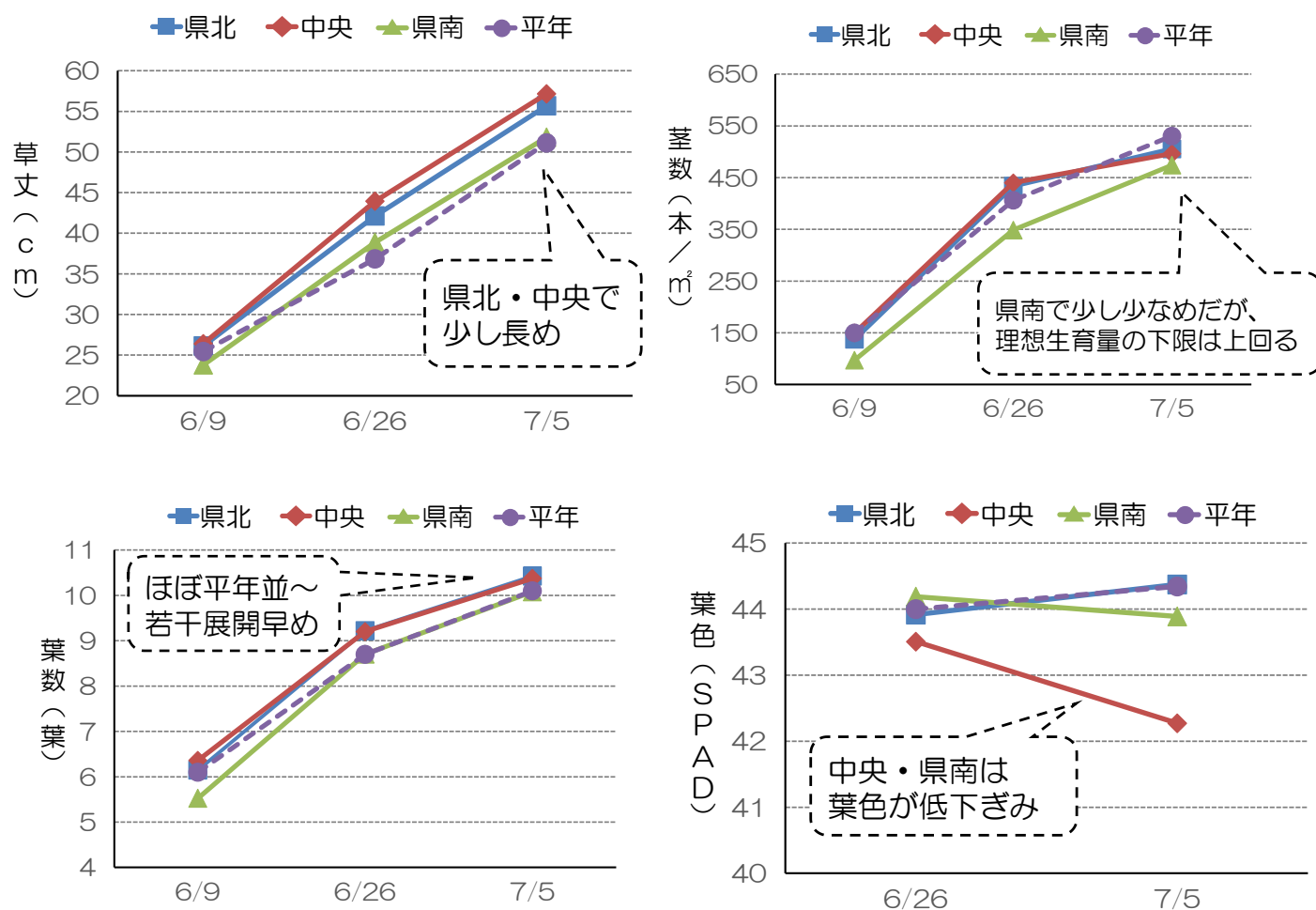


図 1 地域ごとの生育の推移（左上：草丈、右上：茎数、左下：葉数、右下：葉色）

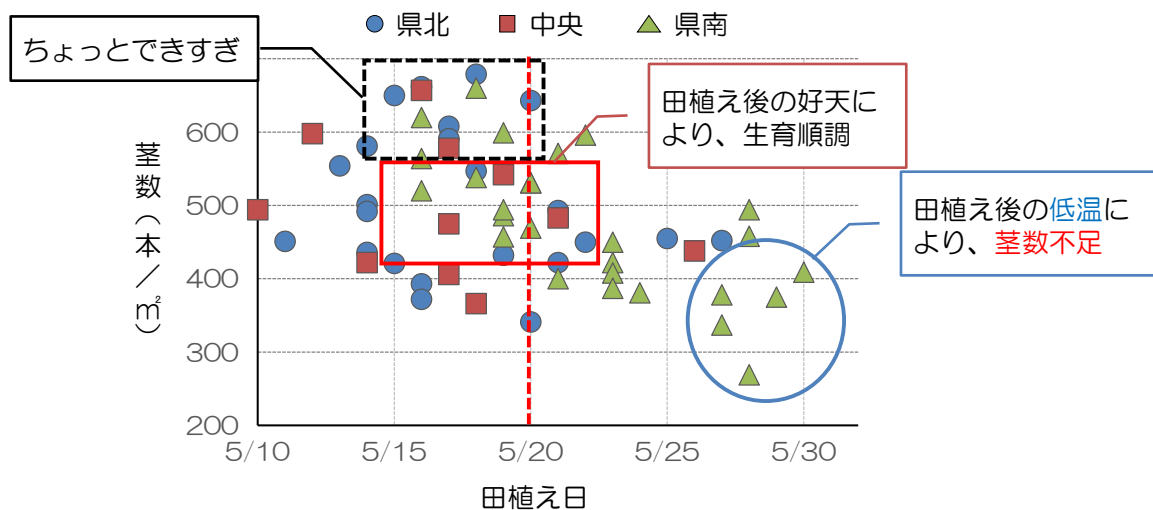


図 2 田植え日と茎数の関係

表 3 秋田市の気象統計値（7/4、秋田地方気象台発表資料より抜粋）

|    |    | 気温（℃） |      |        | 降水量（mm） |        |        | 日照時間（h） |        |        |
|----|----|-------|------|--------|---------|--------|--------|---------|--------|--------|
|    |    | 平均    | 平年差  | 平年との比較 | 降水量     | 平年比（％） | 平年との比較 | 積算時間    | 平年比（％） | 平年との比較 |
| 6月 | 上旬 | 19.4  | +1.0 | 高い     | 21.5    | 91     | 平年並    | 62.6    | 91     | 平年並    |
|    | 中旬 | 21.7  | +2.1 | かなり高い  | 18.0    | 44     | 少ない    | 57.2    | 99     | 平年並    |
|    | 下旬 | 22.5  | +1.8 | かなり高い  | 75.0    | 129    | 多い     | 38.6    | 73     | 少ない    |
|    | 月  | 21.2  | +1.6 | かなり高い  | 114.5   | 93     | 平年並    | 158.4   | 88     | 少ない    |

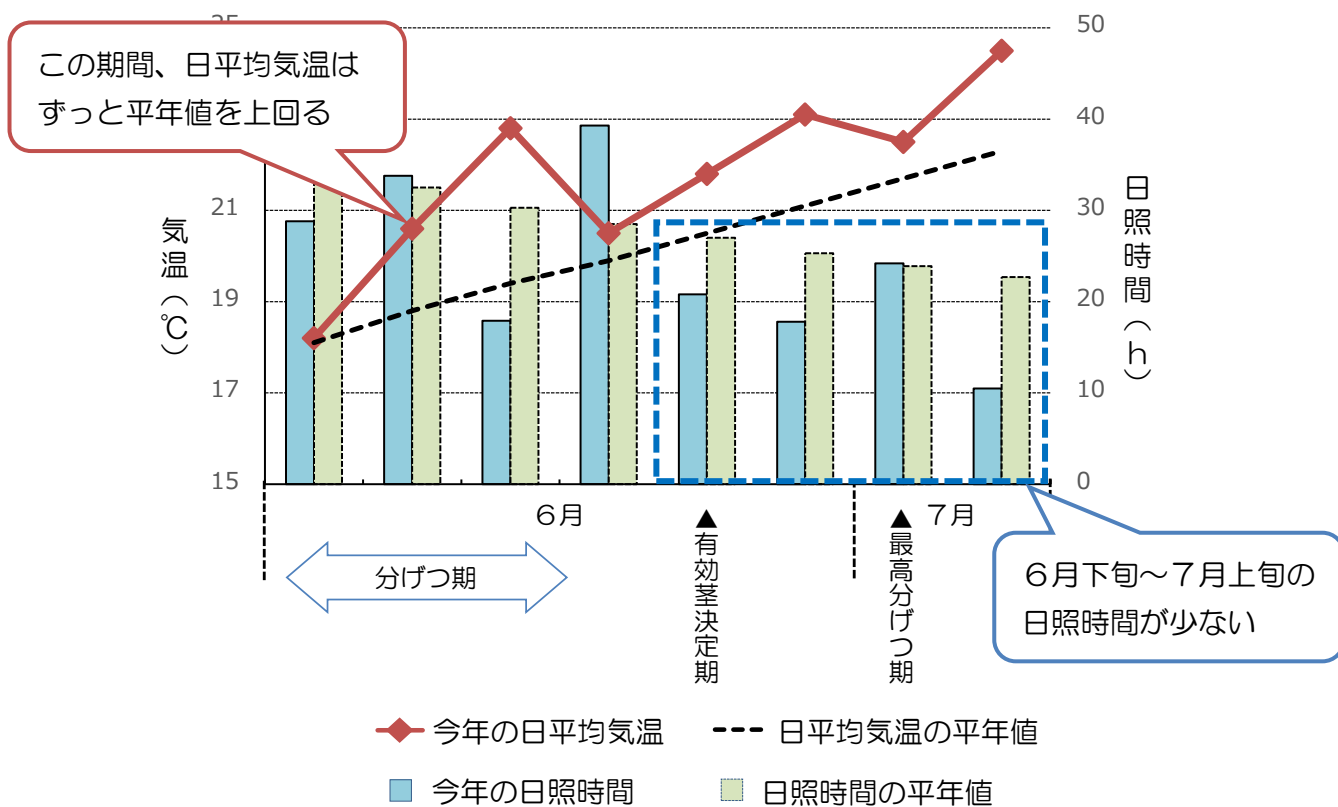
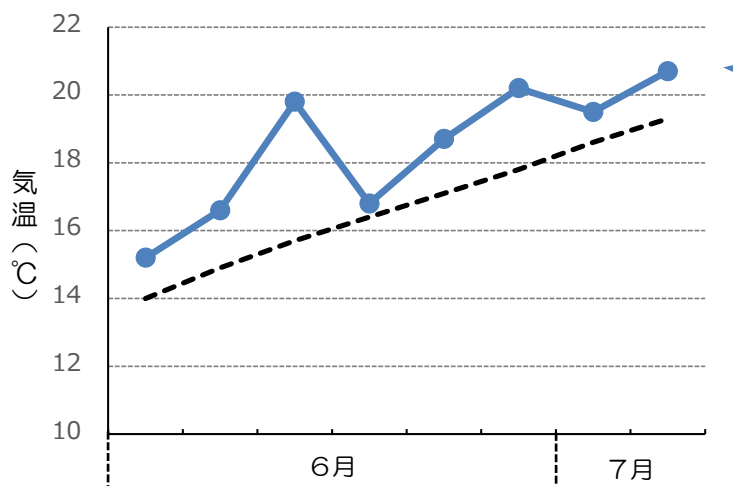


図 3 秋田市の日平均気温の推移



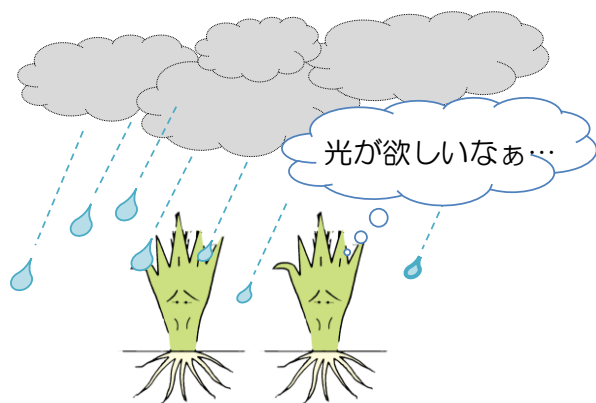
期間を通して平年値を大きく  
上回る  
→ 日気温較差が小さかった



地域によっては、**分けつの  
発生が緩慢**だったか？

● 今年の日平均最低気温    --- 日平均最低気温の平年値

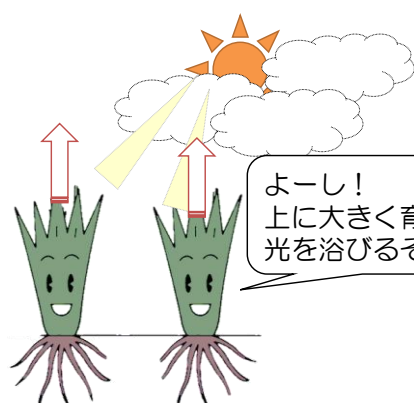
図 4 秋田市の日平均最低気温の推移



曇天が続く →

光を求めて伸長生長を頑張ろうとする

= 分けつ < 上に伸びる



→ 草丈が伸びる

図 5 草丈が伸びる理由

順調な生育の“あきたこまち”  
(2023.7.4 五城目地区)



60cm じゃ足りないよ



少し大きめ”サキホコレ”  
(2023.7.4 大仙市仙北)

7/5 における 5/15 移植（標植）の第 11 葉の出葉は、平年より **3 日早く**、5/25 移植（晩植）の第 10 葉は平年より **1 日早い** 出葉となっています（表 4）。

表 4 出葉期の平年比較（7/5 秋田農試調査、気象感応試験結果より抜粋）

| 試験区             | 年次  | 出葉期  |      |      |      |      |      |      |
|-----------------|-----|------|------|------|------|------|------|------|
|                 |     | 5 葉  | 6 葉  | 7 葉  | 8 葉  | 9 葉  | 10 葉 | 11 葉 |
| 標植<br>(5/15 植え) | 本年  | 5/20 | 5/25 | 6/1  | 6/8  | 6/13 | 6/19 | 6/28 |
|                 | 前年  | 5/19 | 5/26 | 6/2  | 6/10 | 6/16 | 6/22 | 6/29 |
|                 | 平年  | 5/23 | 5/29 | 6/4  | 6/11 | 6/16 | 6/22 | 7/1  |
|                 | 平年差 | -3   | -4   | -3   | -3   | -3   | -3   | -3   |
| 標植<br>(5/25 植え) | 本年  | 5/29 | 6/5  | 6/10 | 6/15 | 6/20 | 6/26 |      |
|                 | 前年  | 6/1  | 6/5  | 6/10 | 6/15 | 6/20 | 6/26 |      |
|                 | 平年  | 5/31 | 6/5  | 6/11 | 6/16 | 6/22 | 6/27 |      |
|                 | 平年差 | -2   | ±0   | -1   | -1   | -2   | -1   |      |

※標植の平年値は、H12～R4 年までの平均。晩植の平年値は、H29～R4 年までの平均。

※移植時葉数の平年値は、標植が 3.4 葉、晩植が 3.5 葉。本年は標植は 3.7 葉、晩植が 3.9 葉。

分げつの発生状況は表 5 のとおりとなっており、標植は **1～3 号 1 次分げつ** の発生が平年より多く、2 次分げつでも **1～4 号** で多く発生しました（表 5）。晩植では **7 号 1 次分げつ** の発生が平年より多く、2 次分げつでは **4 号と 5 号** で平年より多くなりました。

表 5 7/5 現在の分げつ発生状況（秋田農試調査、本/10 個体）

| 試験区     | 1 次分げつ |     |     |     |     |     |     |     | 2 次分げつ |     |     |     |     |     |
|---------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
|         | 1 号    | 2 号 | 3 号 | 4 号 | 5 号 | 6 号 | 7 号 | 8 号 | 1 号    | 2 号 | 3 号 | 4 号 | 5 号 | 6 号 |
| 標植      | 2      | 8   | 10  | 10  | 10  | 10  | 7   | 1   | 4      | 10  | 16  | 14  | 8   | 0   |
| (平年) ※1 | —      | 2   | 6   | 9   | 10  | 10  | 6   | 0   | —      | 1   | 8   | 11  | 6   | 0   |
| 晩植      | 0      | 1   | 5   | 10  | 10  | 10  | 10  | 0   | 0      | 2   | 9   | 20  | 9   | 0   |
| (平年)    | —      | 2   | 6   | 10  | 10  | 10  | 5   | 1   | —      | 1   | 7   | 12  | 5   | 1   |

※1 平年は、標植：H13～R4 年の平均、晩植：H29～R4 年の平均。

あきたこまちは第 8 節以降の一次分げつの発生は少なく、さらに有効茎決定期以降に発生した分げつは無効茎化することがほとんどであるため、中干しで分げつを抑制することが重要になります。

一方、現時点で茎数が確保できていない圃場では、中干しの開始を遅らせ、強い中干しは行わず、茎数確保に努めましょう。ただし、すでに 11 葉期が展開している場合は、第 8 節 1 次分げつが発生することになり、無効茎の発生が増えてしまうことから、圃場ごとに生育を確認し、中干しのタイミングや実施期間を調整しましょう。



## 2. 今後の圃場管理

(1) 水管理：幼穂形成期は体を作るための成長（分けつ）から、

実を作るための成長（穂の形成）に移り変わる時期で、これまで茎葉で蓄えてきた養分を水に溶かして穂に送るため、水を多く必要とします。

この期間に水が不足すると、**1 穂粒数の減少を**

**招く**ため、中干しは幼穂形成期前に終了し、間断かん水に切り替えましょう。

表 6 県内の幼穂形成期予測

|    | 田植え盛期 | 幼穂形成期 |
|----|-------|-------|
| 県北 | 5/20  | 7/11  |
| 中央 | 5/18  | 7/12  |
| 県南 | 5/23  | 7/10  |

### ■向こう1ヶ月の平均気温は高い予報■

仙台管区気象台が7/6に発表した1ヶ月予報では、向こう1ヶ月の**平均気温は高い**と予想しています。気温が高くなると、土壌の還元が強くなる可能性がありますので、気温が高かったり、還元が起きやすい圃場では、間断かん水の代わりに、**“飽水管理”**を取り入れ、異常還元を起こさないような管理を行いましょう。



(2) 追肥（穂肥）：今年の土壌内残存窒素量は平年並みに低下（図6）していますが、**生育量が多い**

圃場では、肥料切れが早くなる可能性があります。今後、**急激な葉色の低下**に注意が必要です。

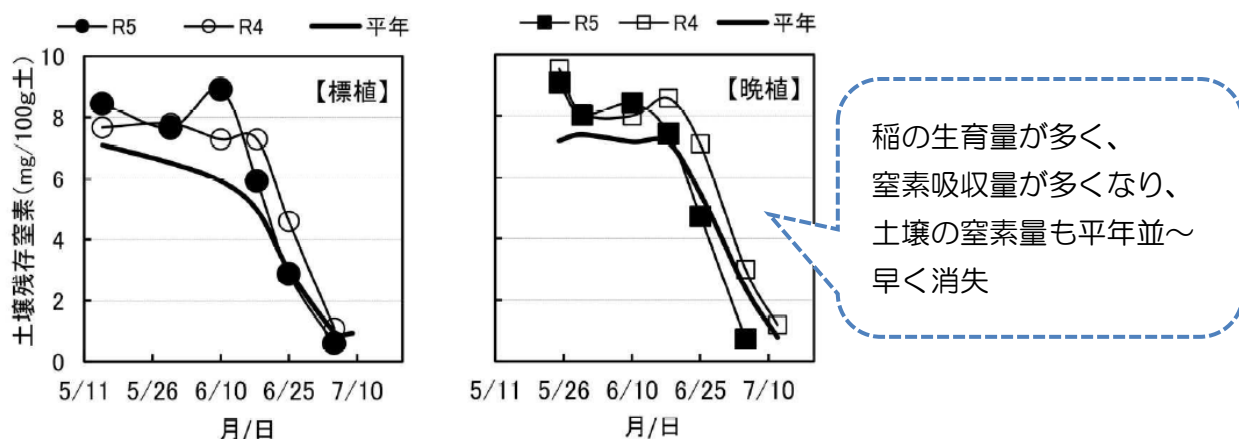


図 6 土壌残存窒素量の推移（秋田農試調査）

※基肥窒素量：7kg/10a。平年値：標準はH12～R4年、晩植はH29～R4年の平均値

また、追肥の有無は、幼穂形成期の栄養診断に基づき実施します。図7は最高分けつ期における栄養診断になりますが、同じ地域でも圃場間差が大きいのがわかります。幼穂形成期以降、圃場ごとに生育を確認し、穂肥の有無・施用量を決定しましょう。

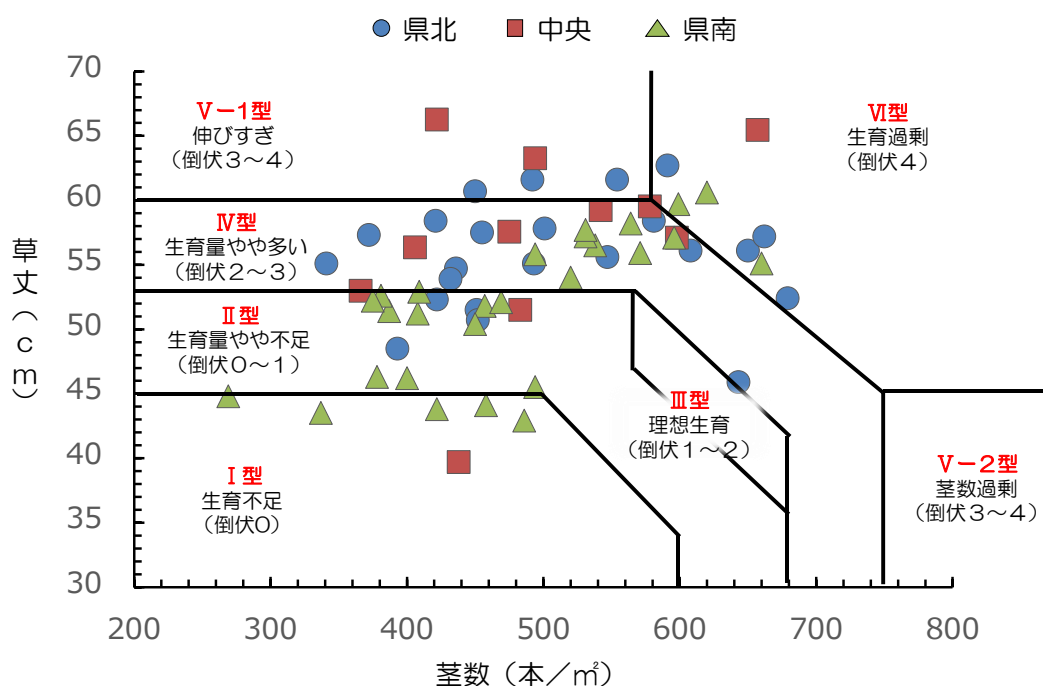


図7 栄養診断例（7/5 最高分けつ期）

### （3）病虫害防除

- ① 葉いもち防除：作況ニュース第5号（7/10 発行、県水田総合利用課）によると、6/23～24、6/29、7/3 にいもち病が感染しやすい条件であったことが確認されており、7/1 に秋田市で発病が確認されています。発生地点は多くなく、発病程度も低い状況ですが、葉色が濃い圃場や生育過剰な圃場では注意が必要です。葉いもちが多発した場合や、坪上の発病が見られた場合は、茎葉散布剤※で防除しましょう。

※ブラシン剤、ノンブラス剤（両剤とも予防剤と治療剤の混合剤）、必要に応じてビーム剤

- ② 斑点米カメムシ類：病虫害防除所の調査で、アカスジカスミカメが **268 頭**（平年 35.9 頭）、アカヒゲホソミドリカスミカメが **250 頭**（平年 47.5 頭）と両種とも 平年より発生が多くなっています。斑点米カメムシ類の防除においては、次のポイントが重要になります。
- 水田内外の雑草管理
  - 薬剤の適期散布



図 8 ヒエの穂に群がるアカスジカスミカメ  
(秋田県農業試験場より提供)

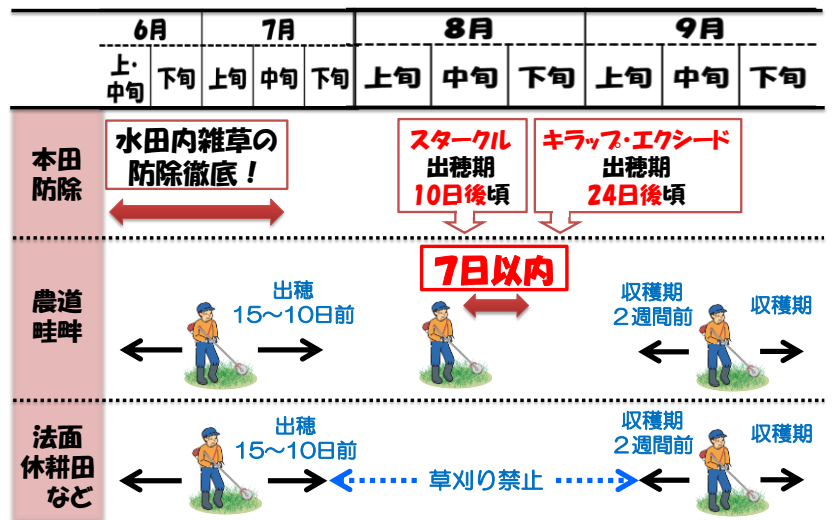


図 9 カメムシ防除の時期と薬剤

### ③ 気象変化に応じた圃場管理：

- 大雨対策：大雨のおそれがある場合は、事前に排水路等の点検や補修を行う。冠浸水被害を受けた圃場では、速やかな排水に努める。
- 台風等の強風対策：強風による稲体の水分低下が懸念される場合は、湛水管理を行う。
- 高温対策：高温が予想される場合は、水の入れ替えにより地温の低下を図り、根の機能減退を防止する。

今年も九州地方を中心に大雨に見舞われ、各地で甚大な被害が発生しています。自然災害のニュースを目にすると、自然の力にはやはり人間は勝てないかと痛感させられます。災害に遭われた方々に、お見舞い申し上げますとともに、一刻も早い復旧をお祈りします。

さて、梅雨入りして早1ヶ月。初めの頃はカラッと晴れる日も多く、今年も空梅雨かと思いきや7月に入ってからジメジメ、さらにはバケツをひっくり返したかのような大雨…自分がまだ小学生だったウン十年前に比べると、本当に気象変化が激しいと感じる毎日です。

ジメジメしていて嫌だな…と文句を言っていると、あっという間に夏がやってきます。

関東以南では、連日猛暑日になったりと、暑い日が続いているようですが、秋田も間もなくです。これからは、今年のお米の品質を左右する大事な時期を迎えますので、熱中症対策をしっかりとした上で、農作業にあたって欲しいと思います。

なべ

全国農業協同組合連合会 秋田県本部  
〒010-8558 秋田市八橋南 2-10-16  
URL : <https://www.zennoh.or.jp/ak/>

★次回の発行は 7/25 頃  
資料の使用にあたっては、  
米穀部の許可を得てください



J A 全農あきた 米穀部  
〒011-0901  
秋田市寺内字神屋敷 295-53  
TEL : 018-845-8500  
FAX : 018-880-1572